

## 普及情報

### 自ら考え、行動する農業者～地産地消の立役者～

明石普及センターでは、2003年8月にオープンしたJAあかし農産物直売所「フレッシュ・モア」に対して、地域に愛される直売所づくり、ひいては地域農業の理解者を増やしていくために積極的な消費者交流の実践を支援してきた。

#### 1 考える

「まだまだ地元農産物は認識されていない」と感じたJAあかし産直部会では、農業者の手でもっと積極的に地元産をPRしていこうと考えた。そして、地元産ならではのおいしさを伝えていくことを目的とした、部会有志4名のグループ「はらぺこあおむし」が2004年6月に結成された。

#### 2 協働する

まず、「はらぺこあおむし」グループは、明石市特産キャベツのPRに重点をおいた活動を展開した。活動を始めるにあたり、「JAあかしキャベツ部会」や「食カレッジ・あかし（健康で安心安全な食生活の普及・啓発を目的としている団体）」との協力体制を企画段階から整えておいた。

#### 3 行動する

そして、グループは栄養士とも連携を図りながら、素材のおいしさを引き出す献立作りを行い、それら

の料理講習会の実施や、直売所でのレシピ配布を行った。また、明石で栽培されているキャベツの品種やその特性などをとりまとめ、「ミニ知識 ～これであなたもキャベツ博士～」として紹介した。

さらには、飲食店営業（露店）許可を取得し、10月末から直売所店頭で「キャベツ焼き」を始めた。キャベツや卵はもちろんのこと、生地も明石産の米粉（コシヒカリ）を使用するこだわり商品で、毎週土曜の販売日には、行列ができる人気である。

#### 4 効果を計る

普及センターは、これらの活動の効果を部会員全体が共有するために、直売所でのキャベツの売れ行きを示した。（図-2）市価もあるし、一概には言えないだろうが、前年度よりも明らかに購入割合が増えており、直売所の大きな自信となった。

#### 5 拡げる

「地元産をいかに食べてもらうか」ということを農業者自らが自分達の課題として真剣に考えると、いろいろなアイデアがわいてくるはずである。普及センターでは、農業者が具体的に行動をおこせるよう、これからも支援していきたい。

秋月麻美（明石農業改良普及センター）



図-1 キャベツ焼き販売の様子

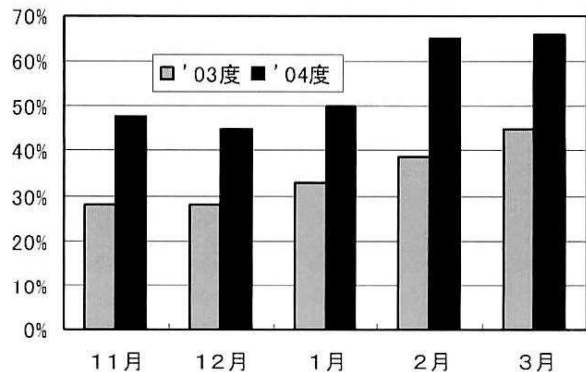


図-2 キャベツの顧客支持率  
(キャベツ購入者数/直売所来場者数)